



兵庫県立明石南高等学校
77 回生年次通信 No.67
2024 年 3 月 15 日発行

年度末考査講評

年度末考査講評です。よく読んで今後の学習に活かして下さい。

科目	平均点	結果講評と勉強法のアドバイス等
論理国語	46.7 点 知 20.1 点 (34 点満点) 思 26.6 点 (66 点満点)	大問一に出てきた記述問題で明暗が分かれたのではないかと思います。この問題に時間をかけすぎて時間が足りなかった人も少なくないのではないのでしょうか。1 問当たりにかけられる時間を考えて解答しましょう。また、答えの書き方がおかしいせいで点数がなくなってしまっている人も多くいました。問いに対する答えはある程度理解できている人が多かっただけに残念です。今年度の考査や課題の取り組みを通して感じたこととして、「部分だけを見て文章の前後や全体を把握できていない人が多い」ということです。単語だけ見て判断したり、一文を通して読まず句点や読点の間だけで判断したりしていませんか。文章を読むのに慣れてくると飛ばし飛ばし読むことも可能になりますが、残念ながらうまくいっていない人も多いです。一つずつ着実に言葉の意味を理解しましょう。
文学国語	51.2 点 知 17.9 点 (得点率 43.7%) 思 33.3 点 (得点率 56.4%)	平均点は一年間通して最も低かったです。これまでの考査と作成者が違ったため、戸惑いを覚えた人もいたようですが、問うている内容はこれまでと大して変わりません。大問四の漢字の問題は、それまでの問題に時間をかけすぎて大問四まで到達できていない人と、まったく勉強していないのではと思しき人が多かったです。範囲も配点も決まっているのですから、あとは勉強するしかありません。時間の使い方も考えていきましょう。解答例の裏面に、各設問の解説や注意すべきことを書いておきました。採点間違いがないか確認して終わりではなく、しっかり読んで糧にしてください。国語の入試問題では「これまでに学習した文章からの出題」はありません。語彙力を鍛え、解法パターンを学習し、難度の高い文章でも読みこなせる力を身に付けていきましょう。
古典探究	54.3 点 知 26.6 点 (53 点満点)	今回の考査は『大鏡』と漢文「説苑」からの出題でした。前回の考査に比べて敬語や主語の判別ができるようになっており、語句の意味も取れていました。『大鏡』の内容を問う選択肢の問題も正答率が 6 割～7 割と比較的よくできていました。一方で、古文を現代語訳する問題が正答率 0.4%と非常に悪かったです。部

	思 27.6 点 (47 点満点)	分点はあるけれど、完全な訳になっておらず、特に謙譲語の訳が抜かっけていて減点されている人が多かったです。敬語がせつかくできるようになってきているので、現代語訳するとどうなるかも意識していきましょう。(普段の生活の中で敬語を的確に使えるとさらに良いですね。) 助動詞の意味も比較的取れるようになってきていますが、過去推量の「けむ」の意味があまりできていなかったため、この春休みは助動詞の復習もしておくといいでしょう。「助動詞を制する者は古文を制する！」と言われていました。がんばってください。後半の漢文の書き下し文ができていなかったのが残念です。使役の「しむ」を漢字でそのまま書いていた人が目立ちました。「しむ」は助動詞です。助動詞は平仮名に直さなければなりません。授業でも担当の先生に言われたはずですが、漢文は句法をしっかりと覚えていれば、だいたいの本文は読めます。句法の確認をしておきましょう。模試や入試では古文、漢文ができるかどうかで上位に食い込めるかどうかの差が出てきます。古文、漢文で点数を落とさないようにしていきましょう。
地理総合	68.6 点	地球環境問題、EU、日本の地形と気候が考査範囲でした。平均点が高く、基礎的な問題は概ね得点できています。一方、観点別の得点率をみると、知識・技能が 74.4%、思考力・判断力・表現力が 60.3%とやや開きがあります。地理総合は地理歴史・公民科の科目の中で論理的思考力が最も求められる科目の一つです。不正解の問題をもう一度解き直し、納得したうえで次に進みましょう。
日本史探究	53.0 点	最後の大サービス問題 (Monoxer の問題) で半分とれていない人。「先生なんかからサービスを受けてまで点など取りたくない」というロックな態度の人以外でなければ、もう少し点を拾うのが得策かと思います。
世界史探究	52.0 点	3 割が冬課題考査より出題。満点を取る生徒、ほとんどできない生徒に分かれた。7 割はヨーロッパの十字軍以降の変動の内容で、地図、資料などを使用しての出題。小テスト、授業での繰り返し学習の中から出題した、極めて平易な問題である。
数学Ⅱ(基礎)	82.0 点	2 年次最後の数学Ⅱ (基礎) の考査で、皆さんすごく頑張ってくれました。今回は、微分・不定積分・定積分の計算で 50 点以上はとれるように考査を作成しました。とはいっても、不定積分で『+C』を忘れてたり、定積分に分数の計算でミスをしたりしがちな分野で、少し不安はありましたが、そんな不安をよそに皆さんは着実に点数を重ねて、左にあるような平均点をたたき出してくれました。この 1 年間で最高の点数が取れた人も多かったように感じています。苦手意識が高かった人も、自習の時間に一生懸命に問題に向き合ってくれていたため、努力すれ

		ば結果につながることを感じてくれると有難いです。 最後に…『継続は力なり』。今後もこの姿勢を忘れず様々なことに取り組んでください。
数学Ⅱ(発展)	48.0点	三角関数苦手だよね…これからみんなに会うたびに、二倍角の公式は？半角の公式は？と聞いていきます。
数学Ⅱ④	66.6点	全て記述式の問題を出題しました。意外とよく書けていました。3月、数学ⅠAⅡBを総復習しておこう。
数学B	68.0点	統計分野は比較的よくできていると思います。共通テストを利用する人は、統計分野が必須になるので忘れないようにしておこう。
生物基礎	62.4点	「主体的に学習に取り組む」課題としてレポート作成してもらいました。授業ではあえて説明をしなかった分野ですが、考査で問題をしたところ正解率が67%、自分で考え、学習した成果が見られました。 黒板を写し取るだけのノートではなく、自分なりにまとめたノート作りが学力の向上につながります。ひと工夫してみましょう。
物理基礎	61.9点	音と電気の範囲の出題でしたが、全体的に基本的な問題はよく出来ていたと思います。音の分野は、気柱や弦の固有振動の図をイメージできれば、計算は $v=f\lambda$ の式くらいしか使いません。大問2の縦波の考え方も、暗記ではなく考え方を理解できるようにしたい問題です。大問4の開口端補正の問題、振動数を変えての固有振動の問題ができるようになると◎。電気の分野は、高校で初めて出てきた、電子の数の計算や抵抗率の問題の正答率が低く、電力の問題も正答率が低い傾向でした。単位も含め、用語の定義の再確認をしましょう。
英コミュⅡ	58.9点	毎回出題傾向は同じなのできちんと対策すれば得点できる問題です。冬休み課題プリント(Paragraph Reading)に関連した応用問題である大問(2)について解説します。 問1はそれぞれのパラグラフ(Paragraph=段落)の主題(Main Idea)や主題文(Topic Sentence)に着目します。 (1)は to provide entertainment (娯楽を提供する)、a means of communication (コミュニケーションの手段) という表現で劇そのものを説明しているので F が正解です。 (2) このパラグラフの最終文 An actor can find himself or herself experiencing feelings he or she would not experience in everyday life. (役者は日々の生活では経験することのない気持ちを体験する。) が主題なので D が正解です。 (3) 第1文 People who go to watch a play also experience a variety of feelings.

		(観客もさまざまな感情を経験する。)が主題です。第2文以下で劇の型とそれぞれに特徴的な感情(笑い、恐怖)を説明しています。したがって C が正解です。 (4) 第1文 The audience is an important part of a play. (観客も劇の重要な一部である。)が主題文です。したがって J が正解です。 問2は C が正解ですが、以下の点に着目します。 A は第1段落の Dramatists, who write plays, present their ideas and view of the world. と一致します。 B は第3段落の People who go to watch a play also experience a variety of feelings と一致します。 C は第2段落で「誰もが日常生活で何かの役割を演じている」と書いてあるが、特に役者のことに言及してはいない。 D は the behavior and reaction of the audience can make a difference to their acting と一致します。
論理・表現Ⅱ	57.8点	今回は EARTHRISE ワークブックではなく、公募推薦対策問題集からの出題でした。ランダム問題集なので、覚えるのが大変だし、点数とれるかなあと心配していました。結果としては、こちらの予想よりも頑張っていました。ただ、考査に向けて()内の答えを覚えてだけという人も当然いたと思います。入試の場合、そういうわけにはいきません。習った文法項目でも、見たことのない英文を読む必要があります。初めての英文でも対応できるように、繰り返しネクステや問題集をやり直すように心がけてください。
実践英語Ⅰ	54.4点	早いもので1年が終わります。選択科目としての実践英語Ⅰを選び、ネクステの小テストを含む週に2時間学習を通じてどれだけ英語の力が付きましたか? テストの採点をしていて、『知識・技能』の得点の低さに毎回がっかりしていました。英語は積み重ねの教科です。コツコツ単語・熟語や文法知識を繰り返し覚えて、与えられた課題に真摯に取り組み、模試でその時の実力を確認し、解きなおしまできちんとする。地道な努力とその継続こそが大切だと思います。もう3年次生です。真の努力をし続けることができる天才になってください。

少しでも勉強法の改善に役立ててほしいと思い、年次通信『ことなり』に「考査講評」を掲載してきましたが、今回の講評が最後になります。各教科の先生方、これまで2年間講評執筆ありがとうございました。3年次では「結果」が求められます。しっかり勉強して高得点を取りましょう。就職や進学のおすすめ選考に学業成績(評定平均値)が大きく関わってきます。校内でもお互い競争ですよ。しっかり頑張ってください。